

野崎左文 （おのざき さぶん） 戯作者、狂歌師。安政五年九月、二十六年上佐國生れ、

昭和十年八月八日歿（八六一—九三三）。舊姓布掛、本名城雄、幼名新次

郎。筆名、おののや、吳園、吳園情史、吳園生、吳園翁、坂上神樂麿、

左文子、左文翁、左文老人、左翁、愛蟹子、愛蟹山人、愛蟹漁史、愛

蟹漁夫、愛蟹老漁、文彦、無腸翁、無腸子、琴亭主人、琴亭文彦（一

世）、茶文子、蟹のや、蟹の子、蟹の家、蟹の家左文、蟹の家老人、

蟹の屋、蟹の屋主人、蟹の屋左文、蟹の屋老人、蟹の舎、蟹の舎左文、

蟹々生、蟹同居、蟹同居足手、蟹垣左文、蟹小僧、蟹施家、蟹施家左

文、蟹施家甲樂、蟹施屋、蟹施屋主人、蟹施屋左文、蟹施屋老人、蟹

施舎、蟹施舎主人、蟹施舎左文、蟹又子、蟹飯鬼左文、蟹林呂、里山

人、野崎、長屋園住等。明治二年上京して大學南校に、また大阪の開

成學校に學ぶ。鐵道寮庭員、工部省技手を經て、九年假名垣魯又に入

門。爾來新聞記者となり各紙を轉々。のち鐵道會社勤務、次いで鐵道院

副參事となり、大正二年退官後は狂歌等の創作、研究などを行つた。梅

本塵山人と共に最後の人物狂歌師。

著書 （今） 代名士語評・初編（本名、明治十四年二月二十一日開新堂）、

「園竹操一節」（琴亭文彦名、明治十九年七月松成堂）、（東海・東山・

漫遊案内）（明治二十六年七月十一日博文館、（改正）東海・東山・

内）（二十年七月四日博文館）、（第一編）東海道之

部下・明治二十七年五月七日、第二編「山陽道之部」、二十八年七月七

日博文館）、（近） 列傳體小説史（内題「近世列傳體小説史」（坪内逍遙池

合著、明治二十年五月十四日春陽堂）、（旅行の友）（第一編）（明

治二十二年七月、二十一）日法木書店）、（日本全

國鐵道名所案内・關東之部）（明

治二十一年五月一日春(祥陽堂)、
『狂歌一夕話』(大正四年)二月五

日印刷・福岡刊)、假名垣魯文作、
『曲

洋道中膝栗毛』(附言、大正十五年)二

月(二十日聚芳閣)、
『狂歌集目錄』(編

大正十五年七月)二十五日明治聖德記念

學會)、
『私の見た明治文壇』(印刷



(二年五月十五日春陽堂)、
『下谷上

野』(合著、久保田金徳編、
昭和四

年四月一日松坂屋)、
『萬載狂歌集』

(校訂、昭和五年七月)二十五日岩液

書店「岩液文庫」、
『徳和歌後萬

載集』(校訂、昭和五年十一月五日



岩液書店「岩液文庫」等。